中国人の宇宙への挑戦～宇宙ロケット「神舟」

N.W 記者（中国）

人類は昔から美しい夜空を見上げながら、広大な宇宙への旅をあこがれてきました。中国の人々の宇宙飛行への夢は、遠い昔から始まっていました。



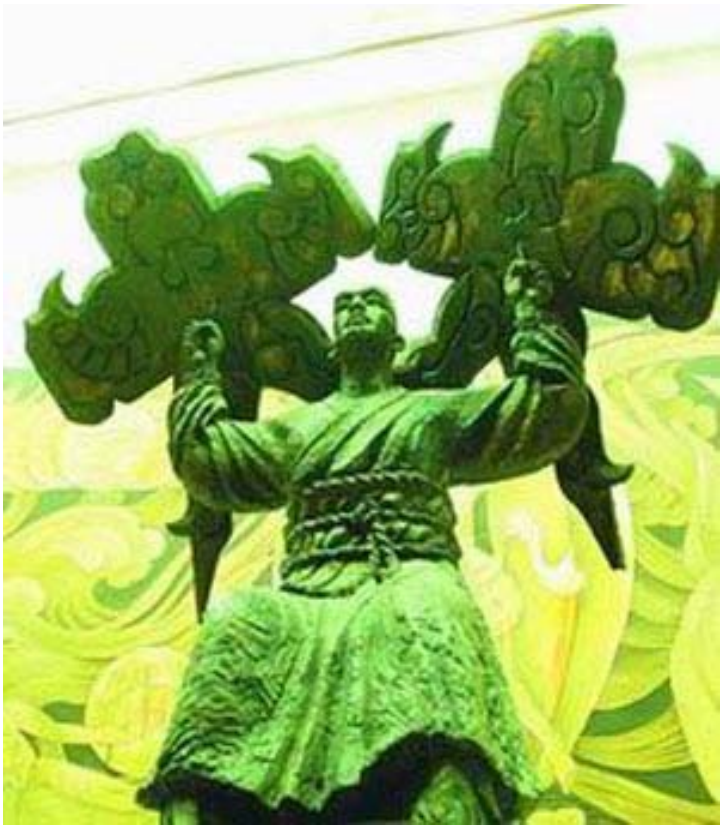
美しい夜空

そしてそれは、女神「嫦娥」が月へと飛ぶという有名な伝説でした。この女神というのは中国の伝説で、不老不死の薬を勝手に飲んでしまい、月に昇ってしまった美女です。中秋の月餅のパッケージなどに嫦娥はよく描かれています。

しかも、歴史的な事件として、１５００年頃、「万戸」（ワンフー）という中国人は火薬ロケットを利用して宇宙旅行を企てました。彼は火炎と煙に消えましたが、彼の凄い胆力と非凡な予見は宇宙に入るための構想を打開しました。



嫦娥



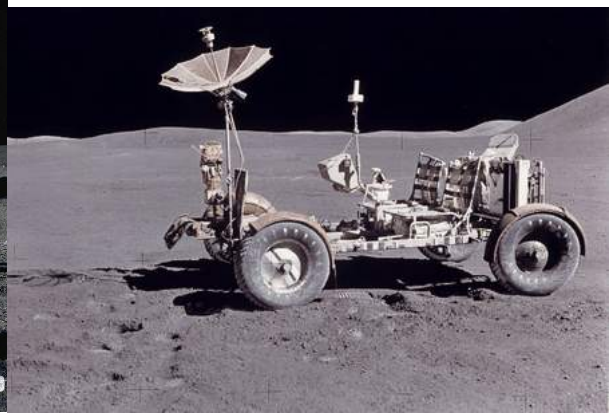
万戸

中国では１９７０年に衛星の最初の打上げに成功しましたが、同時代の旧ソ連とアメリカの宇宙旅行と比べると、全面的に落伍したということが知られています。そして、中国では８０年代から再び、有人宇宙飛行計画が国策として浮上してきました。９２年に中国は正式にプロジェクト「神舟」（しんしゅう）を発表し、本格的な宇宙船と打上げロケットの開発及び宇宙飛行士の養成を開始しました。ここで、「神舟」の名前は、中国の別称「神州」（しんしゅう）と中国語の発音が同じことから、国土と宇宙を結ぶ船として名付けたとされます。



１９７０年に打ち上げられた衛星「東方紅一号」





１９６９年　アメリカのアポロ 11 号が人類初の月面着陸に成功

２００３年１０月中国初の有人宇宙船、神舟５号が打ち上げられました。宇宙船は３人乗りですが、乗組員は楊利偉１人です。さらに、有人宇宙船「神舟６号」が先月１２日にも打ち上げられました。さてこれからは、神舟６号についていくつかのことを簡単に説明しましょう。




楊利偉　出発　　神舟５号　発射

神舟５号は宇宙飛行士１人が２１時間の飛行をしただけでしたが、今回は２人が５日間飛行した後、既定地点に無事帰還しました。

これは中国の宇宙技術は急速に発展していることを示しているのではないでしょうか。研究費がおよそ２５億ドルと発表されましたが、テレビ中継は全国で５億人を超える人々が見ると推定され、中継の合間のＣＭ料金は１秒で約４万ドルと破格の高値がつきました。



出発前の二人



神舟６号　発射





発射の成功を祈っている人々



↑船内の光景





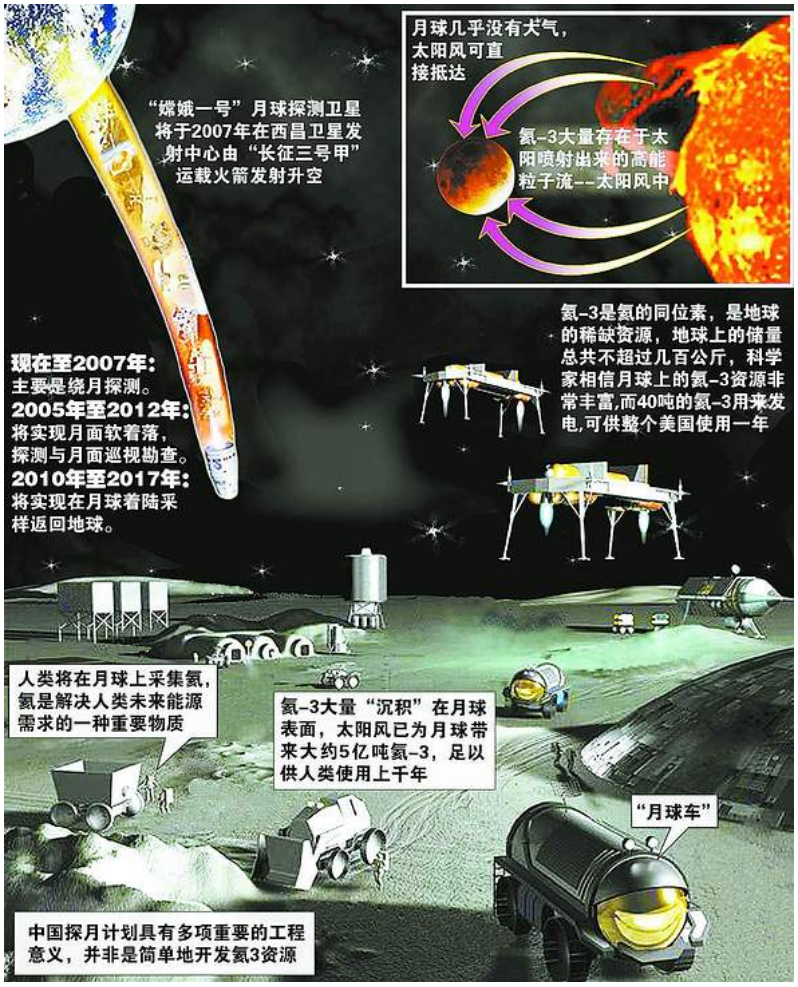
我々の英雄　「お帰りなさい」

一方、アメリカの AP 通信は、「神州 6 号の成功は、中国が月表面上陸と宇宙ステーション設置のため、準備を整えた」と評価しています。実は２００７年にも打ち上げられる神舟７号は、飛行士が船外活動をする予定です。８号以降は宇宙ステーションの建設する計画も発表されました。２０２０年までに有人宇宙船による月面着陸を目指す「嫦娥計画」も進んでいます。





地球から月面へのプロジェクト



もっと具体的な嫦娥計画

なぜ、中国は宇宙開発に情熱を注ぐのか。主要な理由は２つあります。１つは、経済界では「中国経済の牽引役に」との期待が大きいのです。国内での報道では、技術面を企業に拡大するだけではなく、打ち上げ成功による経済波及効果は約１５０億ドルと見積もられています。もう１つは、中国の国際的地位と民族の団結力、自信を一層高めるためと報道されています。

中国は２０００年に発表された中国宇宙白書で「宇宙空間を平和目的に利用、人類全体に利益をもたらす」という目的とし、今も宇宙への探索を続けています。 (2006/03/06)



未来はあそこへ